琴浦町〜鳥取〜京都〜名古屋

2014 年 8 月 29 日〜 9 月 3 日、「琴浦さん」など

はじめに

この年の3月にアニメ「**琴浦さん**」の聖地である鳥取県琴浦町を訪れた。はじめて本格的に聖地巡礼した場所だ。そして7月、Twitterの公式アカウントで**「琴浦さん」のイベント**が8月30日に開催することが告知された。

それまでアニメのイベントなんて行ったことがなかった。もちろん「琴浦さん」のイベントにも行っていない。逆に琴浦町には行ったばかりだ。どうしよう」と思ったが、むしろ行ったばかりで勝手はわかっている。前回行きそびれた場所に行くのもいいだろう。なにより「青春18きっぷ」の夏の利用期間内だ。

そもそも「**琴浦町誕生10周年記念事業**」ということだったから、2度とない機会だろう。仕事の都合はわからないが、とりあえず申し込んでおくだけ申し込んでおいた。7月下旬には、けっこう行く気になっていた。

しかし、8月になって「急ぎの仕事」という連絡があった。納期が8月末なのに未完成部分が大量に残っているというプロジェクトに呼ばれたのだ。フリーランスは時間が自由とはいえ、選り好みできるほどの立場でもない（というより、もともと受ける仕事の分野が広くない）。それにボーランド退職以来に久しぶりにDelphiを使う仕事だった。プロジェクト自体は「仕様を読み取るのが面倒」という程度の業務アプリであり、高度なロジック開発も必要なさそうだったので請けることにした（仕様のわかりにくさは想像以上だったが）。

イベントは8月30日だから、これは行けそうにないとも思ったが、相手が1週間のお盆休みに入る前になんとか不明点の詳細を聞き出し、その1週間の間にひたすらコードを書き続けた。こんなに大量のコードを書くのはいつ以来だろう、仕事では初めてだな、というくらい集中した。ツールの自動生成分を除いても、おそらく1日2000行以上は書いていたと思う。翌週からは色々やりとりもあったが、むしろ相手方の担当分が進んでおらず、その結果納品が延期された（さらに追加の分担がまわってきたが）。そのおかげで何日かだけなら出かけられそうになった。ちなみに、この間、もう1件の仕事も依頼されかけたが、こちらも都合よく相手方の事情で先送りされた。

「何日か不在になりますが、大丈夫ですね？」と担当の人に確認して、行くことを決めた。ただし、3月のときと違って「青春18きっぷ」は使えても「ムーンライトながら」が運行していない。安く行くには青春18きっぷを使って最寄り駅から鳥取までを延々普通電車を乗り継いでいくことになる。最寄り駅を4時台の始発で出ても、鳥取に着くのは午後8時だ。それに青春18きっぷは5枚綴りだ（ひとりで使うと5日分）。残りの日数はどうするのか。そもそも仕事が終わったわけじゃないので、5日間も開けられない。そこでオークションで3日間だけ残っている青春18きっぷを落札することにした。たしか7,700円くらいだったと思う。

そういう事情で、出発前まで仕事をしていたため、予定を立てる時間があまりなかった。他の路線を使うことも少し考えたが、琴浦町のイベントの後は、前回と同じ経路（鳥取→京都→名古屋）を通って帰ることにした。

往路

明らかに準備不足だったが、しかたない。出発前日には「あの夏で待ってる」のblu-ray BOXが届いていた。夜になって新しいエピソードを見て寝た。記録を見ると深夜1]30頃までツイートしてる。そして4時頃に起きた。4:46発の始発電車に乗るためだ。この日は、一日かけて鳥取に行くだけなので、乗り換え駅で寝過ごすことさえなければ多少寝不足でも問題ない。あらかじめコンビニで朝食用のサンドイッチなども買った（食べたのは乗り換え時間に余裕があったときだが）。

とにかくこの日は「**移動日**」なのだ。**計13回**普通電車を乗り換え、**15時間以上**かけて鳥取に行くのだ。

出発

八王子からは横浜線

橋本から相模線で茅ヶ崎へ

東海道本線を乗り換えて大垣

さらに米原へ

京都まで来た

午後2時前くらいに京都に到着した。すでに出発から9時間が経過している。次の電車は20分ほど後だが、その1時間後にも電車はある。昼食もとらないといけないし、ここは1本見送ることにして改札を出た。

京都駅の構内でやっていたジオラマミュージアム

「タチコマの家出」

京都タワー

観光案内所でもらった聖地巡礼マップ

京都駅　中央口

昼食に「京都らしい」店にでも入ろうと思い構内を少し歩き回ってみたが、もともと下調べをしていなかったのと、次の電車までの時間もだんだんなくなっていき、ロッテリアに入った。3時過ぎに京都を出発。

ふたたび鳥取まで電車の乗り継ぎが続く。福知山駅では乗り換えに40分ほどの時間があったので、外に出てみた。

JR
豊岡
とよおか Toyooka
Kokufu
げんぶどう Gembudō

湯けむり荒湯
～夢千代の里～
湯村温泉
YUMURA ONSEN
湯村温泉観光協会
TEL0796-92-2000
http://www.yumura.gr.jp/

JR
鳥取
とっとり Tottori

鳥取

そして、9時半頃に鳥取駅に到着。さっそく夕食をとりたいところだが、ファストフード店は閉まっている（開いているのはミスタードーナツくらいだった）。あとはラーメン屋か居酒屋くらいだ。あちこちまわったあげく、あらかじめ予約しておいたネットカフェで食べることにした。ここは、ネットカフェといっても旅館業営業許可を取っているところで**ドアが閉められる**のだ。

前回もここに泊まったが、今回はBGMとしてかかっているのか、どこからか漏れ聴こえてくる音楽がうるさかった。その上、タバコの臭いまで漂ってきた。置いてある『寄生獣』あたりを読んで寝たが、なかなか寝付けなかった。ツイートの記録でも1時近くまで起きていた。

夜の鳥取駅

夕食にドーナツというのもちょっと……

駅前の通り

なぜかロサンゼルスにあるテーマパークの名前が……

泊まったネットカフェ

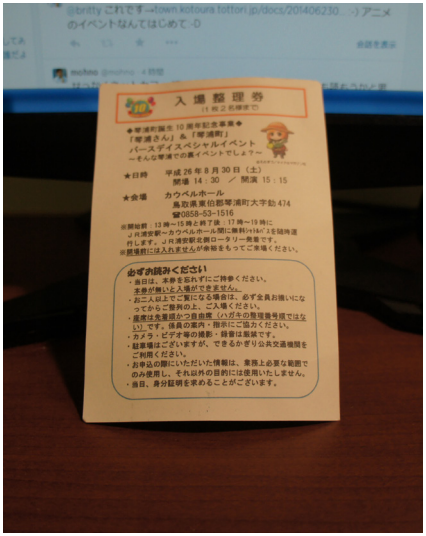
この日の夕食

琴浦町

8月30日、「琴浦さん」イベントの当日だ。だが、イベントは午後2:30開場、3:15開演だ。その前に前回行けなかったところに行ってみようと考えていた。前回は赤碕駅から浦安駅まで聖地を通りながら歩きっぱなしだったから、歩かずに済むところは歩かずに済ませたいと思っていた。調べてみると町営バスがあったので、バスの時刻表を調べておいた。ただし、あまり本数がない。下手に乗り遅れると1時間、2時間と待たされることになる。予定としては、まずバスで「船上山」に行き、また赤碕駅に戻って、バスを乗り換えて「物産館ことうら」まで行き、前回食べ損ねた牛骨ラーメンと飛魚かつカレーを食べ、ここからは歩いて八橋駅まで行き、さらに電車で浦安駅まで行き、少し早いがイベント会場までのシャトルバスを待つというものだった。ちなみに、イベント会場から、さらにバスで「伯耆の大シイ」という場所に行けることも調べておいた。なかなか無駄のないプランだ。

朝食は鳥取駅近くのマクドナルドで食べた。いや、あまり近くてたどり着くまでに時間がかかった。この日は鳥取駅と赤碕駅の往復しかしないので、青春18きっぷを使わず、普通の切符を買うつもりだったから、その時間も必要だ。さらに注文したビッグブレックファストが出来上がるまでに時間がかかり、3分で完食し、慌ててマクドナルドを出て駅に向かった。

まずは船上山に行く。アニメ「琴浦さん」のCMで使われていた場所である。もともと琴浦町と「琴浦さん」は名前以外のつながりはほとんどない。原作者のえのきづ氏も「地図で適当に選んだ」だけだ。アニメを制作する際にCMで琴浦町の名所が使われるようになり、ヒロイン琴浦さんの実家が琴浦町と設定され、浦安駅（ディズニーランドに行く千葉県の浦安駅ではない）が「琴浦駅」としてアニメに登場した、という程度である。



イベント参加証となるハガキ

ここをゆっくりまわるために鳥取から朝5:26の始発電車に乗って、赤碕まで行った。

鳥取から赤崎までの切符

赤碕駅に到着したのは6:47だ。町営バスが赤碕駅を出発するのは6:55だが、時間が過ぎてもバスが見えない。実はイベント参加者が同じことを考えて込んでいるのかと思ったが、少し遅れて来たバスには誰も乗っていなかった。それどころか、終点の「少年自然の家」まで誰一人乗り込んでこなかった。少し天気がぐずついていたとはいえ、休日に誰にも利用されないとは驚きだ。

赤碕駅

町営バスは全区間100円

駅前の地図

「少年自然の家」に到着したのが7:20頃で、赤碕駅に戻るバスが出発するのは10:00だから2時間半以上ある。少年自然の家で、ハイキングコースの地図をもらい出発。ちなみに、ネットで船上山のパンフレットも見つけたが、印刷していかなかった。今思うと、これを印刷して持っていった方がよかったかもしれない。

途中は電波が入らないところも

終点にある「少年自然の家」

「少年自然の家」の人には、すぐに右側の道から山を登るコースを教えてもらったが、もらったマップではハイキングコースは左側からまわるのが順路のように書かれていたので、そちらからまわることにした。「琴浦さん」の CM に出てきたダムも（この時点までダムとは知らなかったが）、そちら側から撮影した感じだった。ハイキングコースは比較的平易な道を案内しているようで、わりと簡単にまわれそうだった。途中、雨に降られたりして折りたたみ傘が役に立ったりしたが、それも短い時間だけで、軽い山歩きを楽しんでいた。

「琴浦さん」のCMで使われた船上山ダム

ハイキングコース（ノルディック・ウォークコース）

船上山ダム

鱒返滝橋（ますがえしだきはし）

鱒返滝（ますがえしだき）

ハイキングコースから見た船上山屏風岩

雄滝橋（おんたきはし）

琴浦町（赤碕周辺）観光案内
船上山
展望駐車場

船上山の登山口まで来て、少し迷いつつも、山頂まで登ってみることにした。このとき8時半、バスの出発まで1時間半くらいあるし、ここからは30分ほどでバス停に戻れるはずだ。

10分ほど歩いた頃だろうか、山頂まで25分という看板があった。実際にどれくらいかかるかわからないが、あくまで目安だろうし、もっと時間がかかるかもしれない。そうでなくても往復で1時間以上かかるとすると、バスの出発時刻に間に合わないかもしれない。何しろ10時のバスを逃すと、**次は2時間以上先**なのだ。この日のメインは「琴浦さん」イベントであり、山登りではない。そう思って、それ以上登るのを諦めた。

登山口まで下りて、バス停の方に向かった。マップを見ると、少し先を下っていくだけだ。

登山口まで戻って、ふたたび"順路"を歩き始めた。しかし、そろそろ一周してバス停に戻れる頃かと思っても終着点が見えない。それどころかもらった地図にない道が見えていた。「道を間違えたのか？」と思って誰かに聞きたいところだったが、まわりには誰もいない。しばらく歩いて、ようやく切った木を運んでいるらしい人を見つけて「少年自然の家」の方向を尋ねてみた。「えー、**全然違いますねぇ**」

もらったマップの右上に「至中村」と書いてあるまったく別方向の道に入りこんでいた。ここまで下り坂を歩いてきたが、つまりこれを上って戻らないといけないということだ。泣ける。さっき登山口に入って上り下りした20分も恨めしかった。このせいで疲れていて、"足がつる"という状況だった。

だが、悔やんでいても始まらないので、必死にさきほどの登山口まで戻ってきた（右の写真）。この時点で9時55分。

本来下りるべき道は、ここのガードレール脇にあった（下の写真、ただし、これも普通のコースではなかったらしい）。あと5分で発車時刻だから、少しばかり急いで下りたところで間に合わないと思ったが、落ち着いてはいられない気持だった。このバスを逃したら2時間以上も待たなければならないのだ。急坂かつ倒木なども少しばかり険しい道を10分ほど急ぎ足で下って、ようやくバス停に着いた。

船上山少年自然の家
④

思ったより早く着くことはできたが、もちろん**発車時刻を過ぎていたバスはいなかった**。もう足がガクガクしている。これは伝家の宝刀「タクシー」一択だと思って、ふたたび「自然少年の家」の人にタクシー会社の電話番号を聞き、配車のために電話してみた。「そこだと配車までに1時間以上かかりますねぇ」

なんだと！　それじゃあ赤碕駅で乗る予定だったバスにも間に合わない。いや、直接「物産館ことうら」に行けばいいのか。でも、1時間"以上"ってどれくらいなんだ？　そもそも電話は、いかにも「そんなところまで配車したくない」という感いっぱいの口調だった。あまり待たされると、物産館に立ち寄る時間すらなくなってしまうのではないか。「これはもう駅まで歩くかな」と口にすると、「ここから12kmくらいあります」と言われた。「今の自分」が12kmをどれくらいで歩けるか、正しく考えられなかった。「2時間くらいかければ到着するかな、ひたすらタクシーやバスを待つよりよいかも」とか考えてしまった。

バカだった。

歩き始めたが、少し歩いて、歩き始めたことをとても後悔した。歩けなくなったのだ。それまで上り坂や登山道を含む山道を3時間くらい歩き続けていたのだ。しかも、最後の1時間くらいはだいぶハードに歩いていた。「足が言うことをきかない」、「足が棒になる」、そういう表現がぴったりな状況だった。なにしろ膝が曲げられない、つま先をまっすぐ前に向けることすら難しい、そういう状況に陥って、ガードレールに寄りかかって休息せざるを得なかった。座り込むと立てなくなりそうだったからだ。

歩き始めた頃の道路に書かれていた「ツール・ド・大山」の表記

それでも少し休むと歩けるようになるので、前に進んだ。スマホで地図を見ると、着実に進んではいるものの、予定していたバスにも電車に乗れそうにはなかった。物産館は諦めるしかないかと思って、もう一度地図を見ながら、ふと、電車に乗る必要があるわけじゃないことに気付いた。実のところ、前回撮り損ねた「昼間の浦安駅」を撮影したいとは思っていたので、まったく必要がないわけじゃなかったが。物産館を諦めるなら、目的地は今日のイベント会場（カウベルホール）である。どうせ歩くなら、直接会場まで歩けばいいじゃないか。マップを見ると今いる場所からの直線距離は、赤碕駅も物産館もカウベルホールもたいして違わない。

バカだった。

どのあたりで撮影したか忘れたが、この写真の頃には相当後悔していた。赤碕駅は海岸近くにあるので、そのまま歩いてもゆるやかな下り坂だっただろう。だが、会場のカウベルホールはもっと山側にある。実際、そこに向かう道はなだらかだが上り坂だった。きつかった。すぐにきついことはわかったが、もはや戻ることもできない場所だった。何より辛かったのは飲み物がなくなったことだ。足がつるのは水分不足とで聞いたことがあったので、ペットボトルのお茶はあっという間に飲み干していた。しかし、この山の道はどこまでいっても自動販売機がない。電線すらなかったので、どこで飲み物が補充できるかもわからなかった。雨があがったのはよかったが、天気がよくなり、かえって脱水症状を起こすんじゃないかという不安にかられていた。

この写真を撮った後は、写真を撮ったり、ツイートしたりしなくなっていた。余裕がなかったというより、今は目的地に達することこそが最優先で、それ以外に労力を費やすのはやめるべきだと決めたのだ。

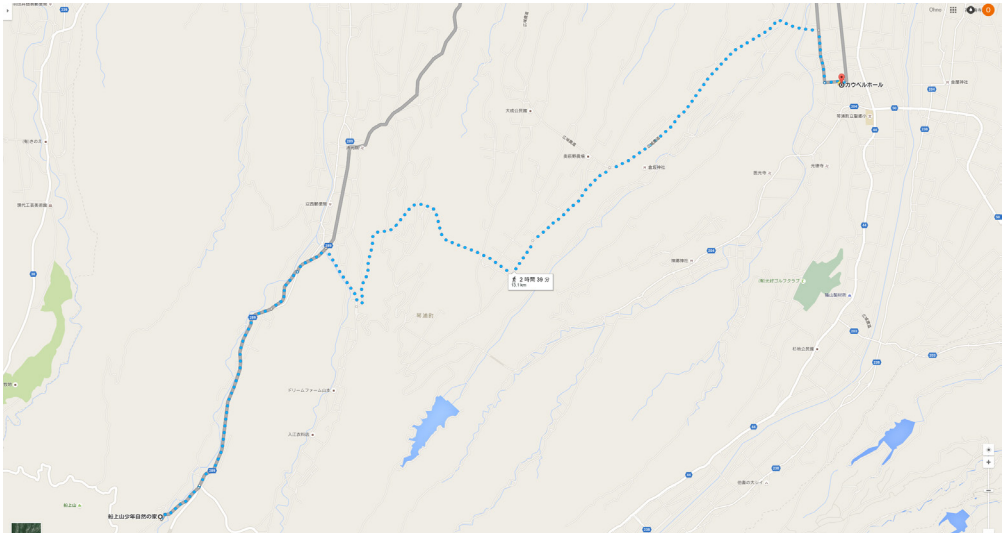
自然少年の家を出て1時間半くらい過ぎた頃だったと思うが、「これはヒッチハイクしないといけないかな」と考えるようになっていた。それこそ道端にでも倒れ込めば、誰かが拾ってくれるかもしれないが、そこまで朦朧としていたわけではない。それに、そうするくらいなら救急車を呼ぶことになるだろうが、イベント参加どころではなくなる。マップを見ても、あと6kmくらいある。歩くことができさえすれば、まだイベントには間に合う（この時点で、開演までは3時間くらいあった）。だが、水分が補給できていない。気力を振り絞っても、脱水症状に陥ってしまったら、やはりイベントどころではなくなる。

それでも腕を上げてクルマを呼び止めるのはためらわれた。そもそも、なかなかクルマが通らない道だ。だいたい幹線道路でもないところでヒッチハイクするようなあやしいオジサンを乗せたいとも思わないだろう、と考えてしまう。しかし、そうやってクルマを見送ると後悔する。今見送った次に、いつクルマが通ってくれるかわからない。割と上り坂を上り切ったところだろうか。これでしばらくは平坦な道を歩けそうだと思った反面、残り1時間近くあることを思うと、体調がもちそうな気がしなかった。ヨシ、と覚悟を決めて、次にクルマが来たら腕をあげることにした。歩きながらクルマが来るのを待ったが、長かった。そしてクルマが来た。腕を上げて指を立てる。

そのクルマは、すーっと通り過ぎていった。

そりゃそうだ。タクシーじゃないんだから、そんなに簡単に停まってくれるものか。何台チャレンジしたら乗せてくれると決まっているわけではない。ああ、こんなことなら今まで見送ってきたクルマが惜しい。めったに通らないのに、そのチャンスを見送ってきたのだ。そして、また、しばらくしてクルマが来た。また腕を上げる。今度は停まってくれた。

歩く姿に悲壮感があったのかどうかわからないが、親切な若いお兄さんだった。座席に蛍光灯が何個もあったので、電気屋さんかもしれない。ついでよいので、カウベルホールの近くまで乗せてくださいと伝えたところ、そこまで乗せて行ってくれた。ああ、助かった。これでイベントに参加できる。心からの感謝を述べてクルマを降りた。



このときの経路、ほぼ中央にある曲がり角を曲がった後でクルマを呼び止めることができた

「琴浦さん」イベント

何はともあれ会場に到着した。結局、開場時間（2:30）よりも2時間も早く着いた。シャトルバスの運行もまだのはずだが、すでに列に並んでいる人もいた。私はといえば、「最後尾はこちらです」というスタッフを遮って、「飲み物を買いたいので」と入り口近くに見えた自動販売機に突き進んでいった。

500mlのペットボトルを3本買って、ようやく列に並んだ。まだ開場まで2時間以上ある。どこまで回復できるかわからないけれど、しばらく休めるのは間違いない。座って壁にもたれかかり、足は延ばしているのだか曲げているのだか、普通に座って休むという感じですらなかった。**3本のペットボトルはあっという間に空**になり、さらに**買い足した2本のペットボトルもすぐに空**になった。軽い脱水症状だったのかもしれない。そのうちシャトルバス組が到着した。物産館も浦安駅もまわれなかったが、なんといっても今日のメイン、いや今回の旅のメインは、このイベントである。早く着けたというだけで満足しよう。

もともと帰りのバスに乗り遅れなければ赤碕駅から物産館ことうらまで行って、「琴浦さん」のCMで紹介されていた「飛魚かつカレー」と「牛骨ラーメン」を昼食として食べるつもりだった。だが、何も食べることができなかった。飲み物は飲んでもお腹はすいていた。しかたなく電車で食べるつもりで持ってきた、つまみのナッツを食べて空腹をしのいでいた。そこに「**牛骨ラーメン**」を売りに来た。列に並んでいるところに配達してくれるらしい。「物産館ことうら」で食べるつもりだったものが食べられる。これは注文するしかない。しかも500円という良心的な値段だった。

ラーメンがやってきた。それを食べているうちに、「**あご（飛魚）かつカレー**」と「**あごかつカレーバーガー**」も売りに来た。やったぜ！　「物産館ことうら」は前回訪れていて、ただ時間が合わなくて（「うまいもんや」は午後3時閉店）、食べられなかっただけだ。それが、ここで全部食べられるなんて。ペットボトル5本を飲み干した後で、ちょっときつい感じはあったが、これはもう全部食べるしかない。カレーとバーガーも注文して食べた。

並んでいるところで注文を取っている

シャトルバスが次々到着する

人も増えていく

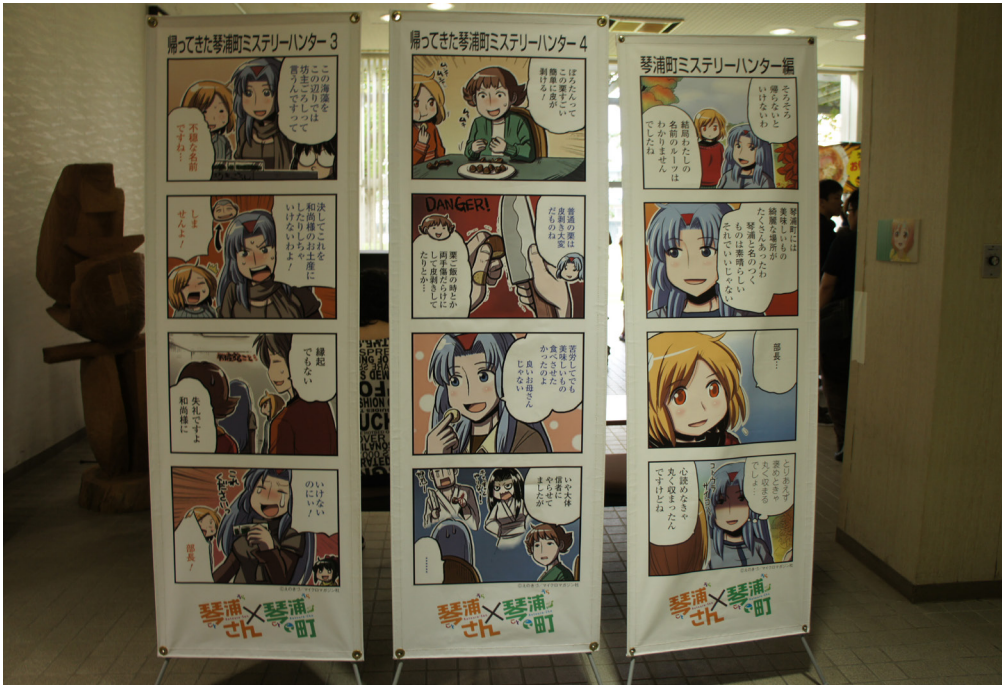
あごかつカレーバーガーも売れていく

だんだん人が増えてきたが、今回に限っては待ち時間が長いのは助かった。完全に回復するのは無理にせよ、食事しながら2時間休息できた。予定通り2時半に開場。全席自由席なので、まずは席を確保する。前から2列目の左側。まあまあのポジションだ。

そのあとは物販コーナーへ。限定販売品のうち「琴浦さん名刺」は、前回の訪問で買っていたし、通販でも売っている。今回は、名前を印刷して持ってきていたくらいだ。そこで、ポロシャツとレプリカナンバープレートを2つずつ購入した。ここまで来てケチったりする方がもったいないよね。レプリカナンバーは、売り切れていたものだったが、このイベントのために復刻したらしい。後で気付いたが「琴浦町10周年記念」のマークが追加されていた。この他、「琴浦さん」3巻（生徒手帳付）と「アニメーションファンブック」を買った。

開場で貼られていたポスター

開場直後のようす



琴浦町の広報誌に掲載された琴浦さんの四コマ漫画

もちろん物販にも並んだ

琴浦さんの名刺

レプリカのナンバープレート（復刻版）は人気

等身大（より少し小さい？）琴浦さん

ポロシャツを買った

そこかしこに名場面が貼られていた

限定版書籍は、ほぼ売り切れ

この日来ていたのは「SKB」Tシャツ（『帰宅部活動記録』より）

3時15分、イベント開始。400人くらい入る会場で、空席は後ろの方だけだったと思う。無料のイベントで、交通の便が悪く、申込みだけで来ない人も多いんじゃないかと思っていたが（下手をすれば私もそうなっていたが）、そんなことはなかった。北は岩手、南は沖縄から申込みがあったそうだ（会場にいたかどうかは未確認）。挙手で確認していたが、やはり鳥取の人は多かったし、琴浦町の人も少しいた。というより、思ったより少なかった。琴浦町10周年記念なのだし、けっこう地元の人で埋まるんじゃないかと思っていたが、「琴浦さん」が、この地では放送されていなかったという影響があるのだろうか（BSでの放送もなく、ニコニコ動画などのネット配信で見るしかなかった）。東京から来る人なんてそんなにいないだろう、と思っていた私が甘かった。もちろん、金元さんの魅力という点は大いにありそう。

MCはフライングドッグの人で、最初は琴浦さん役の金元寿子さんと、真鍋君役の福島潤さんのトークショー。金元さんが向かって左、福島さんが向かって右という立ち位置で収録の思い出とかを語っていたが、終始、福島さんが金元さんに「せまってくる」ため、金元さんがどんどん左側に寄ってきて、左側に座っていた私はいい思いをした。

収録のことをよく覚えていたのは福島さんの方で、誰それがこの順番で立って収録していたとか、ぶっちゃけ主役級を次々とこなしている金元さんに比べれば、長年脇役が続いて、これが初主演となるわけで、思い出深かろう。その後の「弱虫ペダル」の鳴子くんもいい感じだった。さらに（誰も突っ込まなかったし、私も気付いていなかったが）福島さんは、第6話の旅行回に出てくる真鍋君のコスプレ（わざわざ服を探したのかな）で、胸に琴浦さんのぬいぐるみを付けているというくらい、入れ込み具合が半端なかった。

少し意外だったのは、2人とも琴浦町がはじめてだったということ。「あれ、イベントやってなかったけ」と思ったけど、今調べたら、金元さんが登場するイベントは東京・大阪だけで、琴浦町でのイベントは「琴浦さん」展があっただけだった。そういうわけで、MCの人が「琴浦町の印象」を聞いても、「クルマから見えた海がきれいそう」とか「緑が多そう」とか、あたりさわりのないコメントしかできないのもしかたない。せっかく来たのに（参加者と違って）名所めぐりするような暇なかったんだろうな。ちなみに、福島さんは、ご自身を「お笑い担当」と認識されているのか、ところどころ「こちらに来るクルマの中で考えてた」というギャグをちりばめられて、笑い（または失笑）を取っていた。

多忙で出席できないという太田雅彦監督からもメッセージが届いていて、アフレコの収録現場が楽しかったことや、（トークショーの後に上映する）1話と12話は「自分がやりたいと思っていたことをやり切った感じ」という話が紹介された。原作のマンガもアニメのBDも揃えたけれど、やはりアニメが傑出であり、とくに大きな話題にもなった1話の前半が素晴らしい。脚本のあおしまたかしさんがうまいのかもしれないが、とくに幼稚園時代からの友達に琴浦さんの“能力”がばれて離れていく短いシーンは、そこから深い物語を想像できてしまう、「琴浦さん」屈指の名シーンだと思う（友人の一人の声が赤崎千夏さんというのも個人的にポイントの高いところ）。終盤の暴力事件が絡むところは、少し無理やり感もあったけれど、最後はうまく締めくくられていた。少なくとも、4話（2巻）まではおススメのアニメだ。

途中から、原作者のえのきづさんがトークショーに加わった。えのきづさんが琴浦町を訪問するのは3回目だそうだ。アニメ化の前に訪問したことはなかったはず、と思っていたけれど、検索したら2012年8月21日に鳥取県庁を訪問したという情報があった（アニメは2013年1〜3月）。鳥取まで行っていたら、琴浦町にも行っているだろう。「琴浦さん」展（2013年7月13日〜）でも、琴浦町でトークショーなどをやっているようなので、それ以来、ということだろうか。「これから年に1度は来ることにしようかな」とおっしゃっていた。

“琴浦”という名前は「地図を見ていて適当に選んだ名前」で、えのきづさんにとってもこんな展開になるとは予想されていなかっただろう。アニメ化で真鍋君を福島さんが演じたことで、福島さんの演技が原作の真鍋君の性格付けにも影響したり、原作ではダークな性格付けもあった琴浦さんがアニメ化以降、ソフトな感じになっていったり、アニメが原作に影響を与えているという話をされていた。「すばらしい作品にしていただいて嬉しい」とのことで、このアニメ化なら、それも心からの言葉だろうと納得できる。

あと、琴浦さんがカタコトでしゃべる場面があるのだけど、最初アドリブだったものが(?)定着して、台本にもカタカナで台詞が書かれ、脇に「フィリピンパブ風」と注釈が入っていたそうだ。

トークショーに続いて1話と最終12話の上映会。何度も見ているので“感極まる”ということもなくなっているのだけど、やはり1話の秀逸さと、最終話の締めくくりはよいと思う。

上映会の後は、えのきづさんが琴浦町の広報誌のために描いた四コマ漫画を使った生アフレコ。そう、琴浦町の広報誌のために、琴浦さんのキャラを使った名所紹介のマンガが描かれていたのだ。その四コマ漫画を集約した小冊子は、今回のイベント参加のお土産にもなっている。

アフレコといっても、「琴浦さん」に登場するESP研のメンバーは5人で、声優は金元さんと福島さんの2人しかいない。なので、一人二役などで声をあてることになるのだが、ここが運営のうまいところで、最初は琴浦さん＝金元さん、真鍋君＝福島さん、というパターンだったのが、たとえば室戸大智に金元さん、御舟百合子に福島さん（わざと男女逆）を当てたり、琴浦さん＝福島さん、真鍋君＝金元さんというパターンにしたり、遊び心満載で、会場も笑いにつつまれていた。まさに「めったに見られないものを見た」感じだ。

琴浦町は開催費用を出しただけで、企画はフライングドッグに任せたのではないかと思ったが、むしろ琴浦町の人が積極的に企画を考えていたそうだ。派手な演出はなかったけれど、そういうところで楽しめるイベントになっていた。ああ、でもプロジェクターが投影する画面にイチイチ入力切替画面が出ていたのは、ちょっと失笑をかっていた。切替器くらい用意しておけばいいのに。

続いて、「アニメCM場所当てクイズ」。琴浦さんのCMには、琴浦町の名所が使われているので、それを当てるというものだった。三択問題で、答えるのは金元さんと福島さん。なんだ、観客に振られるわけじゃなかったのか。全部覚えていったのに、と思ったが、考えてみれば、この状況で会場に振るわけにはいかないだろう。三択なので素でまじめに答える金元さんと、お笑い担当として、明らかに間違った選択肢を選ぶ福島さんという構図が続いた。それぞれの問題の後で、琴浦町の観光係の人が問題に使われた名所の解説をされていた。ちなみに、琴浦町の人が登場したのはここだけ。「琴浦町10周年」というからには、どこかで町長の挨拶とか入るのかと思ったけれど、最後までそういうことはなく、ほんとうに普通のアニメイベントだった。

最後に、「琴浦さん」の誕生日と琴浦町10周年」を記念した、特製バースデーケーキが出てきたけれど、その場で食べるということもなく（あとで出演者＋スタッフで召し上がるのでしょう）、その後は抽選会。サイン入りポスターとか色紙とかアフレコ台本とかあったけど、こういうのは他の人に当たるよね、うん。締めくくりでえのきづさんを含めた全員のコメント。

福島さんが、ご自身にとって初主演作で、自分の方向性を決めるような作品になった、出会えてよかった、と話をされていたのが印象的だった。この

年の10月からは「弱虫ペダル」の続編も始まっている。

「琴浦町10周年」を記念したイベントなのに、琴浦町の宣伝が控えめな上に琴浦町の参加者も少なく「いいのかな」と思う面もあったけれど、琴浦町の町外向け広報活動としては、これでいいのだろうと思うことにする。私も、いつかまた訪れようと思う。ヒッチハイクで乗せてくれたお兄さんのためにも。

深夜アニメに凝り始めて3年、こういうアニメのイベントに参加するのは初めてだったけれど、ホントにいいアニメイベントだった。歌の披露とか新作発表はなく、イベントとしてはやや地味かもしれないけど、楽しい時間だった。今までも、別に「イベントには興味ない」と思っていたわけでも、「楽しそうに見えない」と思っていたわけでもない。それどころか、参加したらきっと楽しいだろうなと思っていたわけで、これからイベント参加に積極的になりそうな自分が怖い。

シャトルバスに乗って浦安駅に戻った。ここから町営バスに乗ってさらに奥に行き、やはりCMで使われていた「伯耆の大シイ」を見に行くつもりだったのだが諦めた。それを見に行っていると「昼間の浦安駅」を撮影できなくなるからだ（それに足も全回復していたわけではなかった）。浦安駅に戻るシャトルバスは、琴浦さんがプリントされたもので、3月に訪問したときに外から撮影したものだった。そのときは、まさか、このバスに乗る機会があるとは思わなかった。

浦安駅を撮影したりしているとき、「1kmくらいのところに備蓄倉庫があるよ」という話をしていた参加者がいた。これは鳥取駅の電車を一本見送れば往復できるだろうなと思ったけれど、足の状態を考えて見送った。

うん、きっとまた来よう。

浦安駅に戻る電車の中で、あちこち聖地巡礼したり、イベント参加したりしている人と会話をすることができた。仙台から来ているらしく、自宅が『かんなぎ』の御厨家のモデルとなった家に住んでいるらしい。「足元を見られて家賃をふっかけられている」とこぼしていた。『かんなぎ』も面白いアニメだ。

彼も青春18きっぷを活用していて、青春18きっぷと夜行バスを駆使して、「毎週末どこかにでかけているくらい」だそうだ。『ガールズ&パンツァー』の聖地、大洗をお勧めされたり、アニメの話がいっぱいできて、これはこれで楽しい時間だった。

鳥取駅に着いたら、近くのモスバーガーで夕食。「どこか鳥取らしく美味しそうなところ」を探す余裕はもうなかった。午後8時頃に前日と同じネットカフェにチェックイン。12時間プランでゆっくりすることにした。

前回同様、翌日は自転車を借りて鳥取めぐりをするつもりだったが、どうせ自転車が借りられるのは朝8時頃からだし、そもそも、足の疲れ具合を考えると自転車でまわれるかどうかも怪しかった。

疲れているのだから早めに寝ればよかったが、シャワーを浴びたり、ツイートしたり、せっかくネットカフェに入ったのでとマンガを借りて読んだりしていて深夜1時頃まで起きていた。

鳥取めぐり

8月31日。7時半ごろに起床。当然ながら足は回復しきれてない。というか痛い。ゆっくり身支度をしてチェックアウトしたが、うっかり財布を忘れるところだった。天気は良かった。ふたたび鳥取駅近くのモスバーガーでモーニングセットを食べる。

足の状態は気になるが、やはり自転車であちこちまわることにした。前回は早い時間に京都に向かったため、ゆっくりまわれなかったのだ。荷物をロッカーにしまい込んだが、帽子まで入れてしまった。今日天気がよさそうだ。300円を無駄にして、もう一度ロッカーを開け帽子を出す。もったいないことをしたが、帽子を出しておいてよかったというほど、この日は天気がよかった。

自転車を借りたのは9時過ぎになった。今回は電動自転車だ。普通の自転車（500円）よりも高い（1000円）が、なんでも遠方からの旅行者を支援するため500円の補助金が出るそうで、500円で済んだ。まず、前回まわれなかった白兎神社方面に向かう。

気持ちいい天気

白兎海岸（白兎神社）に向かう

電動自転車は助かった。足は相当疲れていたが、ペダルをこぐというより足を上下にさせるだけで、勝手に前に進んでくれるという感じだ。自宅にも電動自転車はあるのだが、しばらく使わないうちにバッテリーがダメになってしまい、今はただのペダルの重い自転車になりさがっている。ちゃんとアシストしてくれる感覚は久しぶりだ。

湖山池をまわって、少し遠回りする

湖山池

白兎神社には最短距離を行くつもりだったが、途中で道を曲がり損ねそうになったことに気付いたも。それはそれで湖（とおもったが湖山池という名の池だった）をまわることができそうだったので、そのまま進んだ。途中で自転車を降り、鳥取市民公園にも行ってみた。とりたててどうという場所ではないが、天気がいいので気分もいい。

橋の向こうは青島

青島

青島と湖山池

ふたたび湖山池をまわって別の角度から見た青島

ふたたび白兎神社に向かったが、その途中、早くもバッテリーランプがひとつ消えたのは焦った。これから白兎神社に向かい、さらに"晴れた"鳥取砂丘にも行ってみようと思っているのだ。さらに余裕があれば、「Free!」の聖地である岩美町まで足を延ばそうなどとも考えていた。だが、こんな調子じゃ最後までバッテリーが持ちそうにない。自転車というのは、どんなにゆるやかでも下り坂では力を入れずに済むが、逆にならだかでも上り坂では力を入れないと進んでいけない。電動アシストは、その上り坂を進むのに大いに役立つのだが、鳥取砂丘へ行く道は、ゆるやかどころではない上り坂が結構続くのだ。しかたがないので、平坦な場所では電動のスイッチを切って進むことにした。おかげで足が疲れる……。

道の駅
神話の里白うさぎ
Shinwanosato Shirousagi
500m

白兎神社

途中にはあぜ道かと思うような田舎道もあったが、ようやく白兎神社に到着。「因幡の白兎」ゆかりの場所である。前回は雨が降っていたし時間もなく諦めたが、無謀にも（電動でない）自転車で来ようと思っていた場所だ。しかし、この階段を上るのはちょっと苦痛だった。

みたらし池とはなんか美味しそう！

記念写真

意外に小さかった白兎神社

逆光で暗くなってしまった

白兎神社の説明

大国主命と八上姫の砂像

歩道橋から見た白兎海岸

海岸に下りてみた

海岸から道の駅側に抜ける地下道

地下道を抜けたところから道の駅方向

田村虎蔵 大黒さま歌碑

バス停

足を休めるのも兼ねて道の駅「神話の里　白うさぎ」に入ってみる。お昼にはちょっと早いので、鳥取の地元製であるらしいアイスだけ食べてみた。

道の駅「神話の里　白うさぎ」

大山牧場のアイスを食べながら休憩

鳥取砂丘へ

一休みしたら、鳥取砂丘に向けて出発。今度はコンビニで大きめのペットボトルを調達し、水分補給も万全だ。砂丘までは google マップで12.5kmほどだ。

バッテリーが不安なので電動スイッチを切るものの平坦な道でも向かい風が吹いてきて、ペダルが重い。またペダルをこぐ足がつりそうだ。だが、砂丘前の坂道にたどり着くまでバッテリーを温存しておかないと、それこそたどり着けなくなる、と必死の思いでペダルをこぐ。ほんと、あの山道を間違えなければ、いや間違えてももう少し早く気づいていれば、下り坂をずんずん進む前に戻って入ればと、「たられば」の後悔をしながら、前に進んでいた。

鳥取砂丘まで、あと2kmという看板が見えた。ここからがキツい上り坂なので電動の力を借りる。この先、どこでバッテリーが切れようと、そこまで行ければいい、という場所には来たのだ。坂を上り、トンネルをくぐれば、砂丘は目前だ。予想通りバッテリーランプはさらに1つ消えたがここまでくればなんとかなる。帰り道はほぼ下り坂だから、バッテリーなしでもかまやしない。

鳥取砂丘まであと2km

砂丘トンネル

鳥取砂丘

砂丘に着いた。着いたはいいが、すぐに砂丘に行くには足が疲れすぎていた。自転車を降りて、あまりに足がガクガクして驚いたほどだ。まわりから見たら、足が不自由な人が自転車に乗ってきたと思うんじゃないかと心配されかねない。それほど、ちゃんと立てなかった。ヤバいぞ。砂丘どころではない。どこか休む場所を探さなければと、大衆食堂っぽいところに入る。ちょうど1時を過ぎていて昼食をとる時間でもある。

「大山鶏てりやき丼」という、地元ものっぽいものの食券を買い、適当なテーブルにつく。一歩一歩がしんどい。

さらに水がセルフサービスだった。遠い場所にあるわけじゃないのに、足が棒のようになっていて、膝が曲げられない。水を取りに行くどころか、これで砂丘に繰り出せるのか不安になるほどだった。

だが、愚痴ばかりこぼしていてもしかたがない。時間は限られているのだ。てりやき丼を食べ終えて、ゆっくりと砂丘に向かう。ああ、晴れた日の鳥取砂丘だ。膝を曲げられないので、足を延ばしたままゆっくりと砂丘を降りていく。問題は馬の背と呼ばれる、まさに“砂の丘”を上るところで、膝を曲げないと上れない。これが痛かった。

砂丘入口

向こうに見えるのが“馬の背”

下っていくときは、まだ楽だったが……

この“馬の背”を登っていくのが大変だった

なんとか登り切った

記念撮影

足は痛いが、せっかく晴れているので海岸まで下りたい

頑張って下りてきた

前回は雨だったので海岸までは下りなかったが、今日は天気がいい。足の具合はよくないが、思い切って下りてみることにした。だが、問題は帰りだ。なだらかに戻れる場所を探して、丘の高さが低いところを探してみたけれど見当たらない。足の調子がよければずんずん上っていくところを、登山電車のように斜めにゆっくり歩いて、また逆方向の斜めに歩いて、上っていく。

こちら側は急なので、ちょっと辛い

できるだけなだらかな斜面を探して登っていく

（斜めに歩いてきたので）見回しても人がいないくらい離れたところまでやってきた

現在地を示す杭

誰も歩いていないような離れた場所にまで来てしまったが、距離はあまり問題じゃない。馬の背を越えても、さらに砂丘の入り口まで戻るには、大きく下りて大きく上らないといけないのだ。

戻るには、ここを降りて、ふたたび登っていかないといけない

下りてきた

けっこう緑はある

記念撮影

前回は大きな水たまりだった

砂丘入口の方まで戻ってきた

前回は雨で平日の早朝だったせいか、ほとんど観光客もいなくて、駐車場もガラガラだったのだが、この日は8月最後の休日で晴れていたせいか、とても多くの人がいた。

砂丘会館に戻ると、梨をむいて売っていた。1個200円。実は、「道の家　白うさぎ」でも梨を売っていたが、当然、その場でむいてくれるわけじゃないので、「皮ごとかじりつくのもなあ」と思って買わなかったのだ。これを買って食べた。梨は好きだ。

むいた梨、1個200円

電動自転車のバッテリーランプも残り1つ

梨を食べながら少し休んで、鳥取駅に戻る。『Free!』の聖地、岩美町にまで行く時間も気力もバッテリーも残っていなかった。

さらば砂丘会館

さらば鳥取砂丘

鳥取駅

30分ほどで鳥取駅に戻る。バッテリーもアップアップだ。そして、自分の腕がずいぶん日焼けしたことにも気付いた。駅前では、例の「24時間テレビ」の募金もやっていた。偽善も善だと思い、少しだけ募金。

日焼けの跡

「24時間テレビ」の募金

自転車を返して、駅のベンチで休む。ここから5時間40分かけて京都に行くので、途中で食べるものでもコンビニで買おうと立ち上がって驚いた。また、足が動かない（こればっかりだ）。ふたたび動きの怪しいオジサンになってしまった。これはもう、最小歩数で移動するしかないと、コンビニを諦め、駅に入った。いや慌てて駅に入ってしまったが、何も食べずに京都に行くのも大変そうだ、と思い直して、もう一度駅を出てコンビニに向かう。エスカレーターがあってよかった。

鳥取駅構内にあった「しゃんしゃん傘」

時間に余裕を持たせておいたのもよかった。気が付いたら電車は鳥取駅を出発していた。やや時間が短い乗り換えもあって心配だったが、予定通り10時すぎに京都に到着。しかし、宿泊先は五条駅そばなので地下鉄で移動。

この日は身体の疲労を考えてホテルを予約していた。もちろんネットカフェよりは高いけれど、それでも1泊3,980円だ（朝食付き）。さすがに、この体調のままネットカフェで過ごしたら疲れた体が回復できそうにないと思ったのだ。

コンビニで飲み物やおやつなどを買いに出て、翌日の予定などを考えてみたが、あまり確定できないまま寝た。

五条駅近くのホテルに宿泊

京都めぐり

9月1日。8時頃に起床してホテルの朝食を食べる。バイキング形式とはいえ安いプランなので、たいしたものはない。窓から外を見ると、人が傘をさして歩いている。天気予報を調べていなかったが、雨だったか。また、折りたたみ傘が役に立つのはいいが、やはり雨の移動はイマイチだ。

チェックアウトして、夕べのうちに買っておいた地下鉄一日フリー切符を使い、京阪線の三条駅に向かう。この駅で、宇治・伏見1dayチケット（700円）と湖都古都・おおつ1dayきっぷ（500円）を入手。最初は「京阪線1日乗車券（1200円）」を買おうと思っていたのだが（これは大津線には乗れない）、「大阪方面に出ないとあまりお得じゃないんですよ」という言葉にしたがって、こちらを買った。しかし、大津線はこの後買う「中二病でも恋がしたい」の特製乗車券が使えたので（使わずに済ませるつもりはなかったので）、結果としては無駄な買い方になってしまった。

三条駅で買ったフリー切符

京阪線（乗換駅の中書島）

京アニショップ

最初に向かったのは、木幡駅そばにある「京アニショップ」である。そう、あの京都アニメーションがやっている店だ。広い店じゃないが、朝からけっこうお客さんがいた（店内の撮影は禁止）。

店内は、「Free!」関連グッズが多かった。女性向けの売れ筋アニメを作って結果を出しているのが素晴らしいね。ショッパー袋まで、「Free!」か「京アニキャラ」か「キャラなし」の選択肢になっていた（要らないけど）。

私の趣味は「氷菓」であり「ハルヒ」であるわけだけど、旬を過ぎているのか、いくつか半額セールになっているのが嬉しくも寂しいところ。える嬢のUSBメモリとか半額になってた。いまどき4GBなどあまり使い道がないけれど、せっかくなので買った。

その他、「中二病でも恋がしたい」や「たまこラブストーリー」のポスター、クリアファイル、やはり半額になってた「日常」のクリアポスターとか、散財というには程遠いけれど色々買った。せっかくここまで来たんだからね。

当たり前だが、買った荷物は、この後ずっと持ち歩くことになり、最初に「荷物が増える」場所を選んだのは行程としてはイマイチだったかもしれない。ただ、この時点でまだ雨が降っていたし、外を歩いて楽しむような感じでなかったので、しかたがなかった。

「中二病でも恋がしたい！」
グッズ発売中
Price
その夏は、きっと永遠になる。
Free!
7月2日より放送開始！
OPEN
AQUAチャーム
コレクション
発売中。
ハルカ、永いでます。
近くて遠い、ふたりの恋
たまこ Tamako love story
ラブストーリー
4.26 ロードショー
いらっしゃいませ！
Kyoani
OPEN

伏見稲荷

いまいち使いどころがないフリー切符は「フリー区間」が限られていて、平等院のある宇治駅や前回訪れた伏見稲荷、その間の駅くらいしか自由に出入りできない。

十円玉はなじみ深いが、その後の予定を考えて宇治まで足を延ばすのをためらい（ちょっと後悔した）、今回も伏見稲荷に行くことにした。といっても足が万全ではないので、階段を上るのはやめておいた。

今回は京阪線で降りたので、墨染さんよろしく「おけいはん」である。伏見稲荷は前回も来た場所だが、tripadviser の「外国人に人気の観光スポット2014」で日本国内第一位に選ばれたという“ノボリ”がやたら飾られていたのには驚いた。伏見稲荷の宣伝というより、tripadviser の宣伝に見えるけれど、訪れた人に宣伝してもしょうがないんじゃないだろうか。それより、あちこちに並んでいて景観が台無しだった。聖地巡礼のつもりで来て、これじゃあアニメファンはガッカリだよ。

ただ、「外国人に人気」というのは本当かもしれない。例によってカップルとか家族っぽい人たちに、皆さんの写真を撮りましょうか、と声をかけていたが、5組中3組が外国人（外国語を話す人）だった。というより最初の3組がそうだったので、ちょっと面食らった。前回は、人のいないところを写真に収めるため早朝に来たので、あまり気にならなかっただけかもしれない。ただ、人が多いだけじゃなかった。

伏見稲荷大社

御使いの狐

JR稲荷駅側の鳥居（と邪魔なノボリ）

JR稲荷駅

墨染さんが通う伏見稲荷駅（京阪線）

京阪電車大津線～「ちはやふる」ラッピング電車

伏見稲荷は少し歩き回った程度で、ふたたび京阪本線から京津線に乗り換え浜大津へ向かう。ここで前回来たときには、まだ売り出されていなかった「中二病でも恋がしたい」の特製乗車券（4回分、2000円）を買う。3000セット限定で売り切れているかもしれないと思ったが、そんな心配は要らなかったようだ。ちょっと驚き。

「中二病でも恋がしたい」特製乗車券

ラッピング電車と特製乗車券のポスター

そして大津線のホームでラッピング電車を待つ。

「中二病でも恋がしたい」のラッピング電車がやってきた。だが乗らない。今回は、前回見逃していた「ちはやふる」ラッピング電車に乗るためだ。

ちはやふる
Chihaya

ちはやふる
末次由紀
コミックス絶賛発売中

ちはやふる
Arata

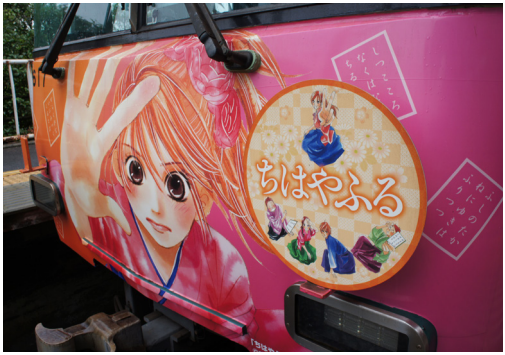
ちはやふる
末次由紀
コミックス絶賛発売中!
BE・LOVE
にて連載中!

ちはやふる
Taichi

ちはやふる

ちはやふる
Nikumankun
Tsukuekun

ちはやふる


ちはやふる

ちはやふる

CHIHAYAFURU
YUKI SUETSUGU
KODANSHA

近江神宮前
ちはやふる
618

車内は「中二病でも恋がしたい!」ほどではなかったが、そこそこ力が入っていた。ちょっとよかったのは（偶然だが）終点の石山寺駅で、この2つのラッピング電車が並んでいるところを撮影できたことだ（柱が邪魔だったけど）。「中二病」の運行時刻はWebサイトで公開されていたが、「ちはやふる」はわからなかったので、あらかじめ電話で確認していたのだが、よく見ると、一本だけずれていたのでちょうど石山寺駅で並ぶのではないかと期待していたのだ。

反対側の坂本駅でも同じになるかと思ったが、「ちはやふる」は途中駅で折り返すことがわかったので浜大津で下車。せっかくのフリー切符が、あまり役に立っていないのだけど、石山寺で「駅から出ずにずっと写真を撮っていられた」のは地味にフリー切符のおかげである。

出町桝形商店街

ここから京阪線に戻って今度は出町柳駅へ。前回、暗くなってから訪れた出町桝形商店街に行くためだ。今回は明るいし、店もやっている。もちろん例の鯖もあるし、「たまこラブストーリー」のポスターも飾られている。スーパーで飲み物を買い、昼飯代わりにみたらしとおはぎを買って鴨川に行く。この頃には雨も上がっていたので、鴨川をながめながら、これらを飲み食いしたわけだが、正直、このみたらしとおはぎは、かなりイマイチだった。

出町柳駅

出町桝形商店街

「たまこラブストーリー」のポスター

鯖のオブジェ

出町桝形商店街

たまこ、矢三郎、たまこ

スーパー

We♡出町桝形商店街

鴨川

鴨川（賀茂川）

出町橋

スーパーで買った「飲むミドリムシ」

餅屋で買ったおはぎとみたらし

「たまこラブストーリー」の重要なシーンで鴨川の飛び石が出てくるのだが、みんながそこを渡っている。そりゃ渡るよね。

飛び石を渡る人々

飛び石

映画に関係なくても楽しそう

あのシーンは、たしかこのあたり

下鴨神社

鴨川で食べて、渡って、さてどうしようかと思うと、やはり下鴨神社に行くことにした。前回、5時で閉まるギリギリに飛び込んだので、時間的に今回も同じ状況だな、と思ったが、そうではなかった。この日は6時まで開いてるようだった。おかげでゆったり見て回ることができたが、4時までに入れば大炊殿拝観というものがあったらしい。残念。

下鴨神社への参道（ここからが、やや遠い）

見えてきた

下鴨神社

鴨の社へ　えと詣（これは、たつ歳、さる歳の守護神）

世界文化遺産
賀茂御祖神社

出町ふたば

さっきのおはぎとみたらしは、出町桝形商店街にあった餅屋で買ったがイマイチだった。よく調べていなかったものの、勝手にここにある餅屋がモデルなんじゃないかと思っていたが、スマホで調べたら、やはり違っていた。「たまこ」のモデルとなった餅屋はすぐそばの別の店だった。下鴨神社に着いたのが5時頃だったから、閉店が5時なら間に合わないし、6時なら余裕だろうと思ったのだが、Google マップが「もうすぐ閉店時間です」と表示していた。閉店時間は5時半だったのだ。もう、あと何分もない。これは行くしかない。重い足を引きずって……いや、走った。

離れた場所から店の前の信号が青に変わったのが見えた。これが赤に変わったら、もう5時半を過ぎてしまうだろう。もう力を振り絞るしかなかった。実際には、品物が売り切れていたらオシマイだし、売り切れていなければ5時半きっかりに閉めてしまうということもなかったのだけど。

間に合った。間に合って「豆大福」が買えた。もう夕方だというのに3つも買ってしまった。もう一度、鴨川まで行って豆大福を食べる。美味しい。

豆大福

ふたたび鴨川の飛び石

祇園四条へ

出町柳から祇園四条駅まで戻って、繁華街を歩く。この日もホテルの宿泊と決めていたが、場所が四条駅だったので、一駅区間を歩くことにした。出かける前は、歩く距離を減らそうと思っていたけど、階段の上り下りも面倒だったし、せっかくの繁華街だから歩いてみようと思ったのだ。

祇園四条駅（奥に隠れているのは南座）

いかにも繁華街っぽい四条通り

北緯35°のモニュメント

ホテルに到着

ハンバーグ・ラボ

ホテルにチェックインして、夕食をどこで食べるか探しに出る。ホテルのすぐそばに「ハンバーグ・ラボ」という名前の店がありは行ってみた。Lサイズ（300g）をライスセットで注文。後で思うと、Sサイズ（150g）でも値段の割合は同じだったから、2種類別のものを頼めばよかったかもしれない。まあ、ハンバーグに関しては色んな意味で自宅が一番なのだけれど、なんだか旅行中に食べた唯一まともなもの、という感じでよかった。また京都に行くことがあったら、同じホテルに泊まって、ここで食べるのもよさそうだ。

京都牛ハンバーグ、Lサイズ(300g)、加茂トマトとモッツァレラチーズのせ

食事が終わって、コンビニで飲み物などを買ってホテルに戻る。今回の旅行の戦利品を確認。

ポロシャツ2枚を撮り忘れた

京都散策

9月2日、短い旅も今日で終わりだ。朝食付きの宿泊プランだったので、まずはホテルで朝食をとる。この日は、名古屋で旧友を訪ねることと、名古屋から夜行バスで帰京するということ以外、何も決めていなかった。京都駅の観光案内所でもらった「有頂天家族」の聖地巡礼マップを見ると、昨日降りた祇園四条駅のすぐそばに南座があることがわかったので、まずは、そこに向かうことにする。電車を使うか迷ったが、行き先も決まっていないので歩くことにした。

泊まったホテル

下鴨神社の宣伝

太秦映画村も行ってみたいところだ

朝なので人通りは少ない

モスバーガーは"THE JAPANESE HAMBURGER"なんだ（これこそ日本のハンバーガー、ってことか？）

「懲りず、先斗町の舞妓と文通する」でおなじみの先斗町！

眼鏡市場
ALOOK
阪急河原町駅
Hankyu Kawaramachi Station
カラオケ
阪急河原町駅
Hankyu Kawaramachi Station
koto+
Jour
Bodes
OPAQUE
ABC
Jour

東華菜館

南座は、「有頂天家族」の1話に登場する。予習してこなかったので、聖地巡礼パンフレットを見て訪れただけだが、登場する場面は夜だった。昨夜であれば、容易に夜の場面が撮れただろう。

「有頂天家族」に出てきた「南座」

赤玉先生の座り込んでいた階段

南座
南座
九月花形歌舞伎
9月2日(木)初日→26日(金)千穐楽
開演時間
昼の部 11時／夜の部 10時30分
通し狂言
壽三升景清
—『関羽』『鎌髭』『景清』『解脱』—
歌舞伎十八番に描かれた
悪七兵衛景清の世界
SHOW THEATER
疑惑
本日初日

続いて、「有頂天家族」で蛙になった矢二郎が住んでいたのが「六道珍皇寺」の井戸。でも、井戸がどこにあるのかわからなかった。六道珍皇寺から、さらに歩いて京都駅方面に向かう。

六道珍皇寺

六道珍皇寺の中

京の五条の橋の上！

欄干の上へあがって手を叩くのは危なそう

「東浅井詰所」って何かと思ったけど、よく見ると「一般のお宿です」と書いてあった

東本願寺・北口（一般参拝客は、ここからは入れない）

東本願寺

東本願寺まで来た。一応、実家は真宗大谷派だ。入口や、阿弥陀堂など大掛かりな修復工事中のようだった。

御影堂門は修復工事中

御影堂

阿弥陀堂も修復工事中

修復工事中の内部

総合案内所
東本願寺お買い物広場
東本願寺お買い物広場
東本願寺お買い物広場

今、いのちがあなたを生きている
Now, Life is living you.
Agora, a Vida vive você!

参拝接待所
真宗門徒は 帰敬式をうけましょう。
靴は石段で
お脱きください
靴は石段で
お脱きください

名古屋へ

東本願寺から京都駅は割と近い。かなり歩いたが、琴浦町の山道、坂道に比べれば、ずっと楽だ。次は名古屋に向かう。この日で「青春18きっぷ」を使うのも最後だ。米原で東海道本線に乗り換え大垣、そして名古屋へ。

歩いて京都駅に到着

琵琶湖線で米原へ、途中踏切トラブルのアナウンスがあったものの、乗換駅より先のことだったので問題なし

琵琶湖線

大垣で名古屋行に乗り換え

名古屋

名古屋が聖地のアニメで実際に見たものは「うさぎドロップ」程度しか知らなかったのだが、つい最近「電波女と青春男」を見た。これが意外に面白かったので、今回最後の聖地巡礼ということにした。たいして巡ってはいないけれど。。

「電波女と青春男」より、名古屋駅構内

「電波女と青春男」より、タクシー乗り場

「電波女と青春男」より、名古屋駅前モニュメント

白川公園

「電波女と青春男」より、矢場町の交差点

JR鶴舞駅

学生時代に、みたらしを買っていた店

焼いてもらっている

名古屋工業大学

足が疲れているのに無謀だったかもしれないが、名古屋駅から矢場町を通って旧友のいる名古屋工業大学まで歩いた。会う前に、いつものみたらしを買う（今回は10本）。これを旧友の部屋で一人で食べるのだから、ただの変なオジサンだ。

実際の放送を見たら、だいぶラッキーな準優勝だった

名古屋工業大学（2号館）

相変わらずいるメイちゃん

要らないって言うんだから、ひとりで食べる

名古屋散策

鶴舞公園を通って地下鉄で鶴舞駅から上前津駅へ。ここの大須アメ横ビルは、高校時代からときどき行っていた。東京で言えば、秋葉原にあるようなパーツ屋が入っているビルである。そのせいでアメ横とは秋葉原みたいなものだと思っていたので、上京後に本物の「アメ横」に行ったときには驚いたものだ。アメ横ビルの中には、まだパーツ屋があった。基盤なんて売れるのだろうか。

名古屋市公会堂

アメ横ビルの中

クルマ用と歩行者用が一緒になっている珍しい信号

大須仁王門通
大須仁王門通
大
須

大須仁王門通

南無聖観世音菩薩
南無聖観世音菩薩
南無聖観世音菩薩
南無聖観世音菩薩
南無聖観世音菩薩
南無聖観世音菩薩

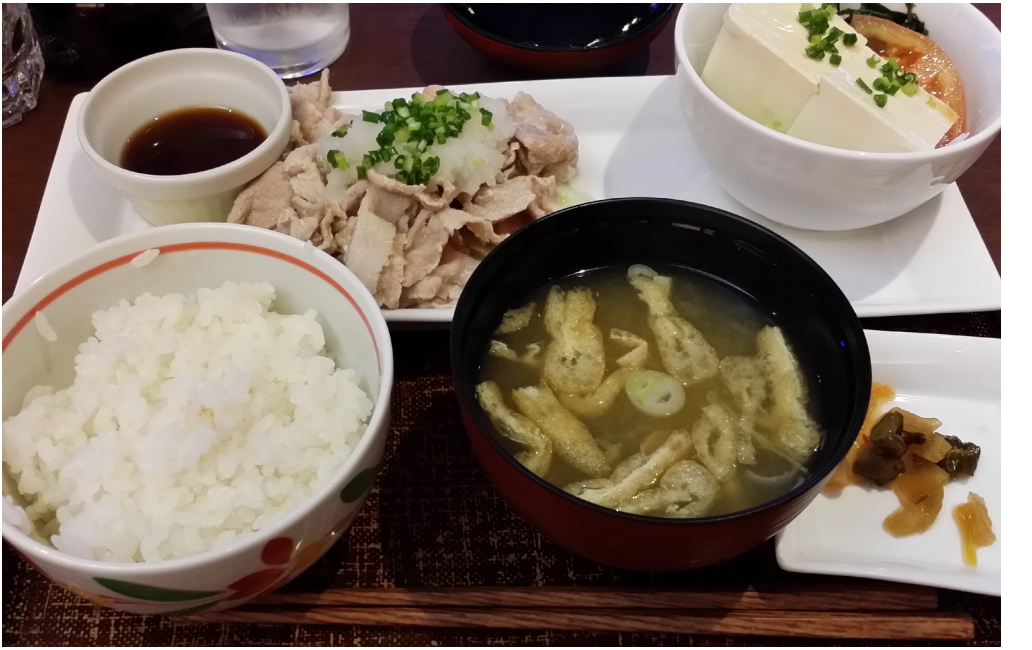
大須観音

結局、ここから名古屋駅まで歩いた。夜行バスの出発まではだいぶ時間があるので、「青春18きっぷ」を使って弥富駅まで往復。もっとも弥富駅は何もなかった。。

金魚の町、弥富！

JR弥富駅は名鉄と共同利用

名古屋に戻って、デニーズで夕食をとる。このデニーズも「電波女と青春男」の背景に使われていたのだけれど外観撮り忘れた。



デニーズの夕食

デザート

帰京

東京へは夜行バスを使った。夜行バスはじめてなので、念のためにとデニーズを出て夜行バス乗り場を探した。乗り場はすぐ見つかったが、時間が早すぎるのか、予約していたバス会社が見当たらなかった。格安だから、JRバスのような待ち合わせ室も用意されていない。しばらく時間をつぶして戻ってみると、ちゃんと案内が出ていた。

最初、夜行バスを調べたときにはバスにトイレが付いてないものがあって、「名古屋から東京までトイレなしじゃきついよ」と思っていたが、（考えてみれば当然だが）ちゃんと途中のサービスエリアでトイレ休憩があった。実際、最初は出発30分後、その後は1時間半ごとに計3回、きっちりトイレ休憩があった。これなら安心だ。というより、トイレありのバスでトイレ近くの座席に配置されるよりいいんじゃないだろうか。

新宿に到着したのは午前5時ちょっと前。だが、ここが終着点ではない。ここから中央線で自宅に帰らねばならない。ほどなく始発なので急いで新宿駅に向かう。そして最寄り駅に到着。マクドナルドで朝食を食べて、帰宅。

これで4日間、計約12万歩の旅が終わった。終わったんだけど、色々あってこの日の昼には永田町まで、その後、仕事の打ち合わせで中野まで行くという、それはそれでハードなスケジュールだった。

琴浦町～鳥取～京都～名古屋

2014 年 8 月 29 日～ 9 月 3 日、「琴浦さん」など

琴浦町～鳥取～京都～名古屋

2014 年 8 月 29 日～ 9 月 3 日、「琴浦さん」など

© 2015 Motohisa Ohno　http://www.mohno.com/

※本文では以下のサイトからキービジュアルなどを引用しています。
「「琴浦さん」＆「琴浦町」バースデイスペシャルイベント」
http://www.town.kotoura.tottori.jp/docs/2014062300020/